

西伊豆健育会病院 看護部 地域包括ケア病棟師長 磯谷 里佐

功 績 1年後の姿に『コロナ禍リフレッシュ休暇』を掲げ、実際に3階スタッフ全員が5連休を取得できるようにし、長い連休を取ったことのない若い職員が地元に戻ったり、自由な時間を満喫できる状況をつくった功績。

推 薦 者 看護部 部長 小川 秋美

推 薦 理 由 看護部全体で考えた場合、COVID-19の影響だけでなく、スタッフへ2連休以上の休みを取らせることはなかなか難しく、鳳凰学園出身の熊本や鹿児島の実家に何年も帰省できていない職員に関しては、私も懸念していました。今回、磯谷のように自分で工夫してルールをつくり、職員の満足度を上げる取り組みをしたことに喜びを感じました。2階病棟や外来部門もスタッフの満足度が上がるような取り組みをしていくきっかけになると考えたため。

内 容

当院では昨年からの引き続き、COVID-19感染防止対策として不要不急の外出を控えており、伊豆から出られず閉塞感を抱いている職員が多いたることを感じていました。そこで、3階(地域包括ケア)病棟師長の磯谷は、『年間の勤務表を提示し、まとまった連休希望日を個々に調査。連休を希望に沿って取得できるよう調整する』という1年後の姿を掲げました。磯谷はこれまでCOVID-19の影響だけでなく、連休自体を取得できず、鳳凰学園出身の熊本や鹿児島の実家に何年も帰省できていない職員がいることを懸念していました。特に実家を離れて2年目、3年目の若い職員には実家に帰省させてあげたいと思っていました。

そこで磯谷は連休を『コロナ禍リフレッシュ休暇』とし、休憩室に1年分のカレンダーを掲示。希望を募り、全スタッフへ「お互いに協力して今年度は全員5連休を取ろう!」と説明。もちろん公休を含めた休暇となりますが、3階スタッフ全員が5連休を取得できるよう勤務を調整することができました。2度のワクチン接種を終え、今回、初めて九州の実家に帰省できた職員は、コロナ禍ということもあり、万全のコロナ対策を意識した連休の過ごし方となるため、友人に会うことなどは難しかったようですが、非常に嬉しそうでした。磯谷や他のスタッフも親御さんに元気な姿を見せてあげられたことを自分のことのように喜んでいました。

また、磯谷は院内ICTの副委員長として新型コロナウイルス感染マニュアルの作成等、感染対策に積極的に取り組んできました。4月からは賀茂地区感染管理連絡会にも参加し、院内だけでなく院外にも活動の幅を広げ感染対策の中心人物でもあります。これまでも夜中に感染が疑われる方が入院となった時は出勤し、感染対策を講じてくれています。地元出身で透析の助手として入職し、もっと患者さんのためになりたいと看護師を目指し師長となった磯谷。西伊豆弁で叱咤する師長に一瞬、怖さを感じることもありますが、実は人情味が溢れていて、スタッフは、とても頼りにしています。困っているスタッフを見ると放っておくことができず、必ず声を掛け元気づけます。磯谷は「変わっている人に好かれちゃって。」と笑っていますが、どんな人でも心を開く力を兼ね備えています。

このように、常にスタッフのことを心から思い、また、西伊豆健育会病院の感染対策の最前線で活躍する磯谷を理事長賞に推薦致します。